

スリー アール
3Rで**ごみ**を

み らい ち きゅう
未来の地球の
ために

減らそう!



もくじ

わたしたちの生活に深刻な ^{しんこく} えいきょうをあたえる ^{もんだい} ごみ問題	P2
ごみを減らすためにわたしたちにできること	P4
ごみを減らすために ^{きぎょう} 企業が ^と 取り組んでいること	P6
3R だけでは ^{かいけつ} 解決できない ^{ちきゅうかんきょう} 地球環境を守る ^{まも} エコな ^{せいひん} 製品	P10

わたしたちの生活に深刻なえいきょうをあたえるごみ問題

生活していると必ず出る「ごみ」。ごみのゆくえや利用については学んだ人もいでしょう。実はそのごみが増え続けたり、適切に処理されなかったりすると、地球環境やわたしたちの生活に深刻なえいきょうが出てきます。どのようなえいきょうなのかを見てみましょう。

地球がますます暑くなる？

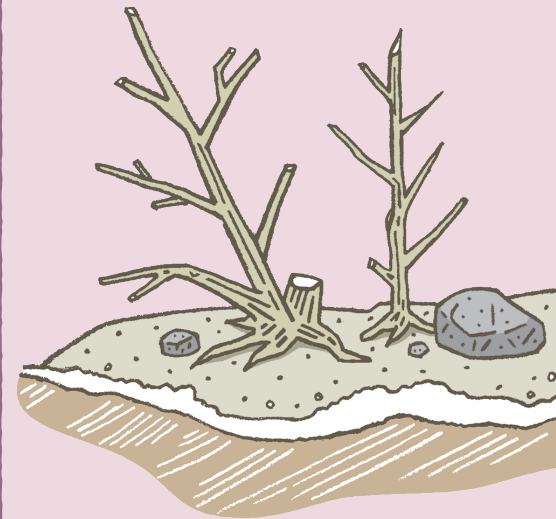
地球の大気を温める働きをもつ「温室効果ガス」の一つとして、「二酸化炭素」という気体があります。二酸化炭素が増えると、地球が温まってしまいう「地球温暖化」の状態になります。

この二酸化炭素は、ものを燃やしたときなどに放出され、もちろん、ごみを燃やしたときも同様に放出されます。つまり燃やすごみが増えれば増えるほど、地球を温め二酸化炭素が増えてしまうのです。

実際に日本の年平均気温は100年間で1.35度、世界では0.76度も上がっています。その結果、夏の猛暑や、自然災害の増加を引き起こしているといわれています。



海や土、川がよこれちゃう！



ごみが増え続けると、ごみを埋め立てる場所がすぐにごみであふれてしまいます。そこで埋立地を増やすために新しく作るとなると、その周囲の自然環境が悪くなります。

またごみがポイ捨てなどで適切に処理されないと、そのごみが土や海などに放置され続け、環境を悪くしてしまいます。特にプラスチックごみは自然環境に残るため、海や土、川などをよごし続け、そこで育つ魚や野菜を食べるわたしたちにも悪いえいきょうをあたえてしまうと考えられています。

天然資源がなくなる？

生活になくてはならない石油や天然ガスなどの天然資源は、無限に出てくるものではなく限りのあるものです。例えば石油から作られたプラスチックを使った後、リサイクルせずにごみとして捨て、また新しいプラスチックのために石油を採り続けていけば、いずれ石油はなくなってしまうのです。



地球環境や自分たちの生活を守るためには、ごみを減らすことが大切。そのためにわたしたちにできることとして「3R」があります。具体的にどのようなものなのかを次のページでしかいします。

ごみを減らすためにわたしたちにできること

スリー アール 3Rとは？

Reduce (減らす)、Reuse (再利用)、Recycle (リサイクル) という3つの言葉の頭文字をとって作られた言葉。この3つの言葉はそれぞれ「ごみを減らすための行動」を意味しています。

3 Rには取り組むべき順番があります。まずは、

Reduce 減らす → Reuse 再利用 → Recycle リサイクル
の順に心がけていきましょう。

Reduce 減らす

ごみの量をできるだけ少なくすることをいいます。使わなくてもよいものは買わない、もらわないようにしたり、使っているものをすぐに捨てず長持ちさせたりすることが大切です。

例えば…



Reuse 再利用

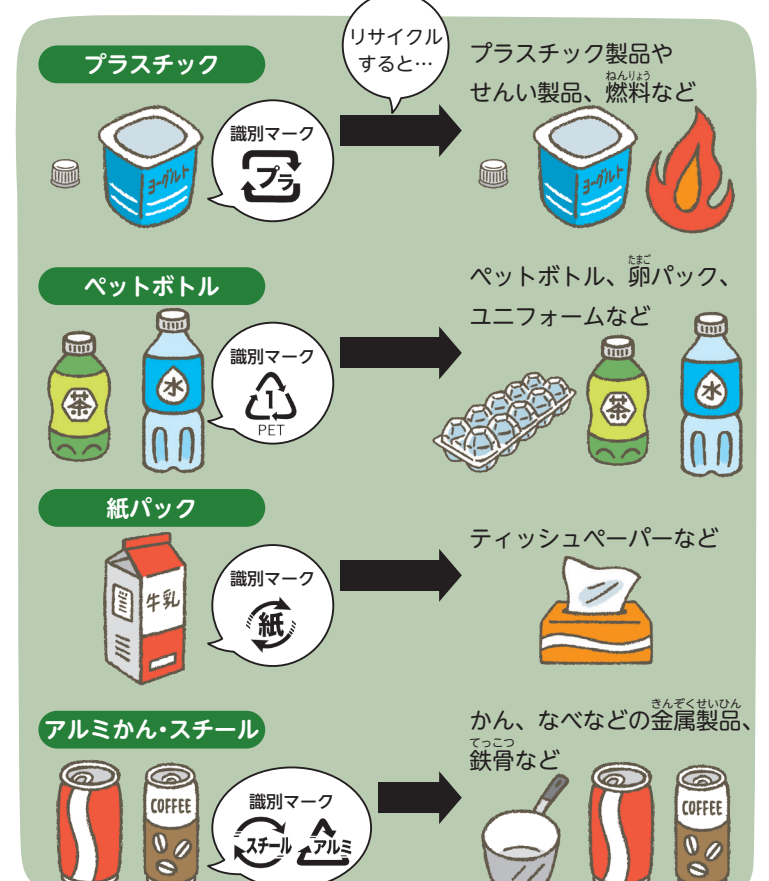
一度使ったものを、捨てずに、再度使うことをいいます。自分が使わなくなったものを、また使う工夫をしていきます。

例えば…



Recycle リサイクル

使い終わったものを、また資源にもどし、そこから製品を作ることをいいます。そのためにわたしたちはリサイクルできるごみを「資源ごみ」として分別する必要があります。分別するときは、製品に表示がある以下のような「識別マーク」を見て行います。



3 Rの行動をするときは、おうちの方と相談しながら取り組みましょう。

ごみを減らすために企業が取り組んでいること

P4・5でしようかいしたように、わたしたちの取り組みでごみを減らすことができますが、なかでもリサイクルは、企業の取り組みも大切になってきます。具体的に企業がどのようなリサイクルの取り組みをしているのか見てみましょう。

リサイクルを取り巻く企業の活動の今と昔

これまででは、製品を作ったり売ったりするときは、図1のように一方向の流れが主流でした。しかしそれではごみが増加し続けるおそれがあります。そこで近年増えてきたのが図2のように円をえがいて循環させる流れです。このように捨てるはずのものをリサイクルして資源として何度も使うことで、ごみを減らしているのです。

図1 これまでの企業の活動(リニアエコノミー)

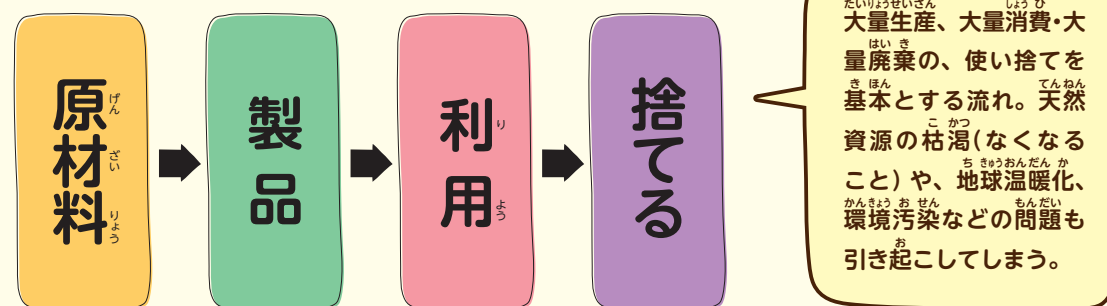
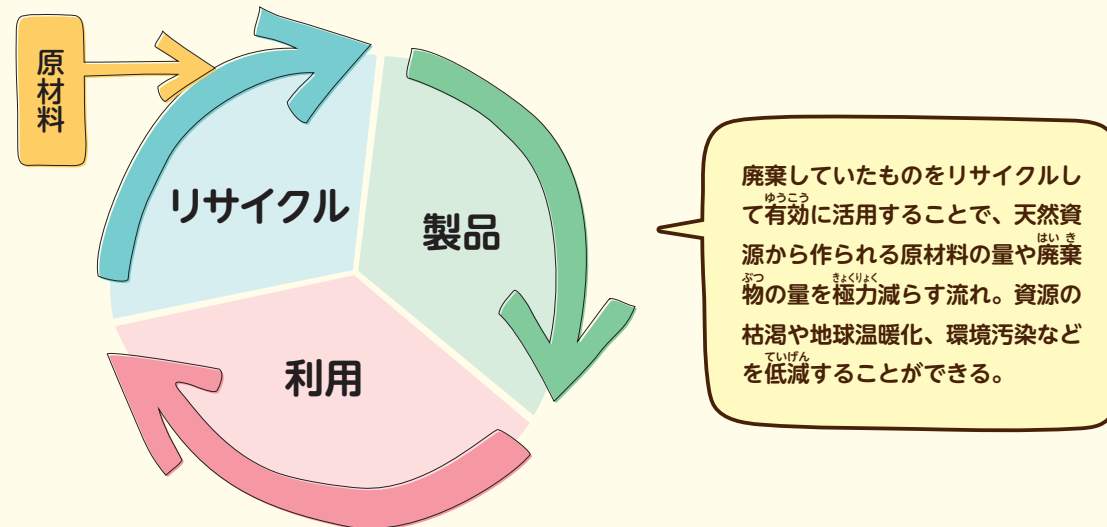


図2 ごみを減らす、これからの企業の活動(サーキュラーエコノミー)



取り組み例 ①

捨てられたプラスチックカップが ごみぶくろに生まれ変わる？

阪神甲子園球場で、観客が使ったプラスチックカップを回収して、ごみぶくろに生まれ変わらせています。このごみぶくろは甲子園球場にもどり、球場内で使われています。

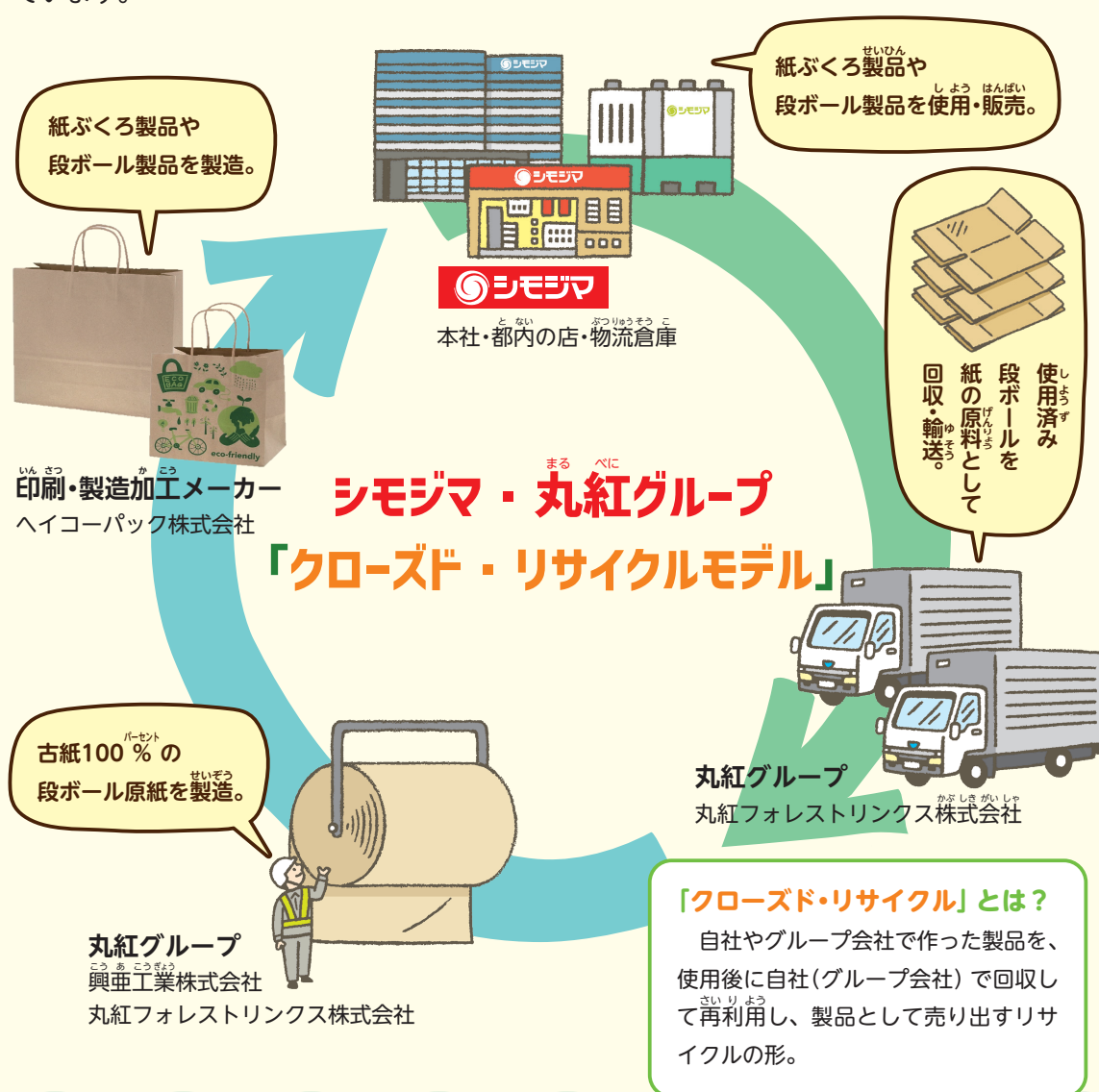


ごみを減らすために企業が取り組んでいること

取り組み例 ②

段ボールは紙ぶくろ・段ボールにリサイクル！

アパレルショップ(服などを売る店)に、工場で作られた衣類を送るとき、段ボールを使っ
て運びます。その段ボールを使い捨てにせず回収して、新しい段ボールや、商品を入れる紙
ぶくろに作り直します。下のようにたくさんの企業が協力して段ボールのリサイクルを行っ
ています。



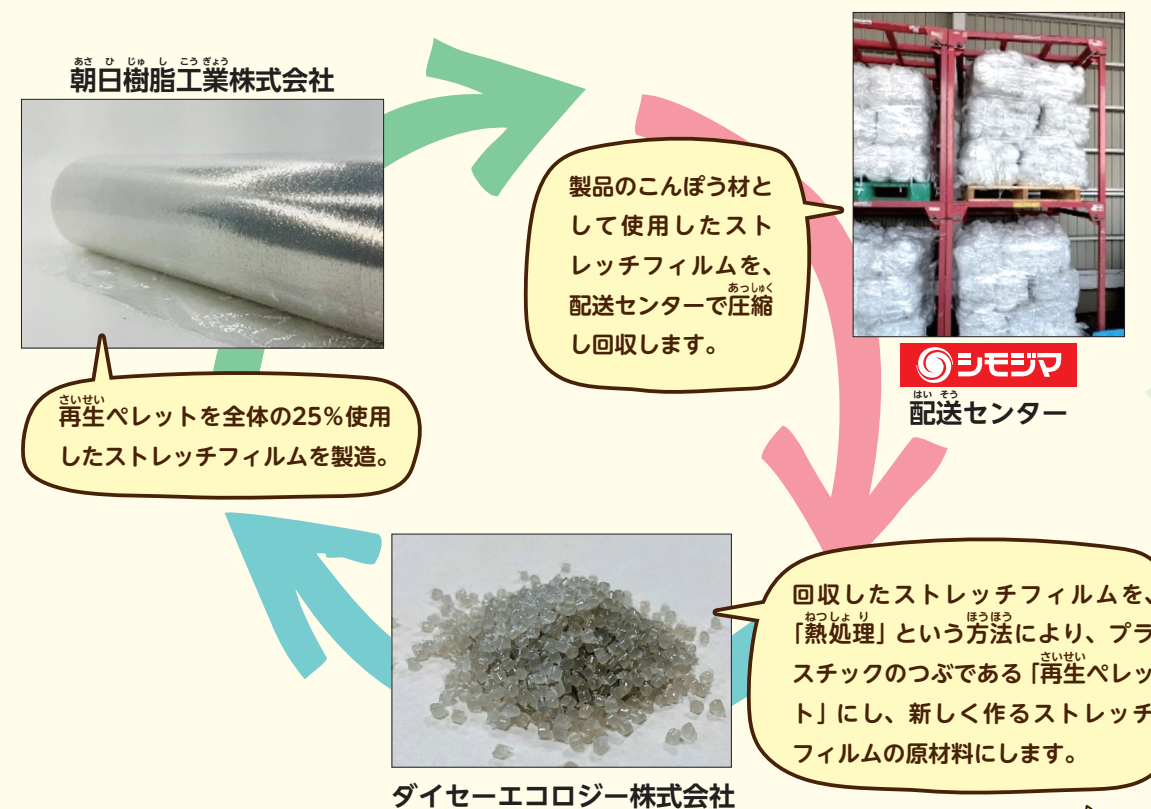
取り組み例 ③

製品を守るこんぼう材「ストレッチフィルム」を くり返しリサイクル！

製品を取りあつかう企業の
多くは、ストレッチフィルムを
よく使います。使用済みスト
レッチフィルムをそのまま捨
てずに、加工して原材料にし、
またストレッチフィルムに生ま
れ変わらせることで、何度も
利用できるようにしています。

ストレッチフィルムとは

製品などを輸送するときに、傷がつか
ないよう、その製品を包むこんぼう
材として利用されるフィルム。食品
ラップフィルムを大きくしたような形
状で、しん縮性や、フィルム同士がくっ
つきやすい性質がある。製品の輸送の
現場ではよく使用されている。



このように企業もさまざまな工夫をしてごみを減らしています。しかしそれだけでは、P2・3でし
ようかいした数々のごみに関する問題は解決しきれません。ごみを減らす以外の企業の取り組みについて、
環境にやさしい商品を例に、次のページでしようかします！

スリーアール 3Rだけでは解決できない

地球環境を守るエコな製品

3R以外にも、P2・3でしようかいした環境問題の解決に向けて、企業がさまざまな工夫をしています。包装用品を製造・販売している株式会社シモジマの製品を例に、どのようなものがあるのか、見てみましょう。

プラスチックを使わない地球環境にやさしい食品容器

紙は、自然界で分解しやすくリサイクルに適した素材です。さらに、原料の木などは再生可能な資源であり、環境にやさしい素材といえます。これまで使い捨ての食品容器やフォーク、スプーンなどはプラスチック製のものが多かったですが、最近では、環境にやさしい紙製や木製のものが増えています。



紙製トレー



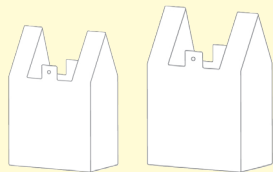
紙製カップ・フタ



木製スプーン・フォーク

プラスチックを再生して資源の枯渇を防げ！「Repla®」を使ったポリぶくろ

エネルギーや費用をあまりかけずに作ることができる再生プラスチックの原料「Repla®」。シモジマでは、Repla® からできたポリぶくろを多量販売することで、資源の循環の手助けをしています。



一部取りあつかいのない店舗がございます。

プラスチックによる海洋汚染から魚を守れ！海水で分解されるポリぶくろ「ENERFISH」

通常、プラスチックでできたポリぶくろは自然界では分解されず、何百年もプラスチックであり続けます。しかし「ENERFISH」は、海の中ではそのほとんどが1年のうちに水と二酸化炭素に分解されます。さらに魚が口に入ると苦く感じるため、海の生き物がまちがえて食べる危険も少ないのです。海の環境や生き物を守ることができるふくろです。



シモジマの商品が買えるところ

シモジマ

直営店22店舗



お店の日々の運営に必要な包装用品・店舗用品・事務用品・文房具などを卸価格で販売。小売業・飲食業・一般企業・サービス業から学校関係・自治体の方、もちろん一般の方まで、幅広いお客様から愛されています。

パッケージプラザ

全国約240店舗

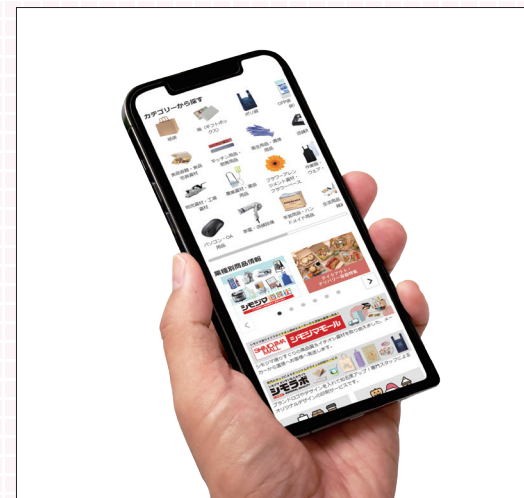


「包装用品のコンビニエンスストア」というコンセプトのもと、北海道から沖縄県まで全国的に展開している、日本最大級の包装用品販売チェーンストアです。

シモジマ オンラインショップ

創業100年を超えるシモジマが運営する日本最大級の包装用品・店舗用品の専門サイト。メーカー直販だからできる驚きの安さが人気です。

▼オンラインショップはこちらから





協力：株式会社シモジマ

発行：「未来の地球のために 3Rでごみを減らそう！」事務局

TEL：03-3527-1135 東京都千代田区外神田3-14-7 (株)スタディマーケット